

出向く営農レポート

～アグリスクールで学んだことを生かして、農業に取り組む～



北部営農センター 尾張旭地区担当
山内 章弘

女性のアグリスクールを令和2年度に卒業された立松純子さんの畑に出向き、学校給食向けに作付け提案したキャベツの生育確認を行いました。

定植は2月、3月と2回に分けて行い、6月にキャベツを継続して出荷できるよう栽培しています。4月以降の気温が高くなる時には『アザミウマ』の被害に注意が必要です。カスリ状に色が抜け、白くなるなどの症状が発生し、品質の低下や傷口から病気の発生を助長します。対策として、グレーシア乳剤・ディアナSCで防除していただくよう案内しました。

アザミウマ類の防除



グレーシア乳剤

- 希釀倍数：2000～3000倍
- 使用液量：100～300ℓ/10a
- 使用時期：収穫7日前まで
- 使用回数(フルキサメタミドを含む農薬の総使用回数)：2回以内



ディアナSC

- 希釀倍数：2500～5000倍
- 使用液量：100～300ℓ/10a
- 使用時期：収穫前日まで
- 使用回数(スピネトラムを含む農薬の総使用回数)：3回以内(定植時までの処理は1回以内・定植後の散布は2回以内)

※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。

立松さんはアグリスクール卒業以来、尾張旭グリーンセンターひまわりマルシェや長久手グリーンセンターへ出荷する他、学校給食への出荷も意欲的に取り組まれ、令和4年度はキャベツの他、プチヴェールやジャガイモ、初挑戦の1本葱も学校給食へ出荷をしていただきました。また、プチヴェールは保育園給食と尾張旭グリーンセンターひまわりマルシェのプチヴェールイベントにも出荷していただきました。立松さんは「これからも栽培品目を増やし、学校給食への出荷に協力したい」と意欲を燃やしています。



立松さんにインタビューしてみました!!

Q アグリスクールに参加してみて、どうでしたか?

A 栽培から出荷までの基礎的なノウハウが学べました。中でも農薬について学べたことが現在の栽培にも活用できています。農薬を正しく使用することで、卒業後にたくさんの農産物を栽培するようになっても、管理する負担が多くなることはありませんでした。また、肥料もアグリスクールで実際に使用したもの参考に自分の畑で取り入れています。

Q 産直出荷するうえで、気を付けていることは?

A 産直施設にはたくさんの地元農産物が並ぶため、少しでも消費者の目につくように工夫しており、トレビスなどの珍しい野菜やカラフルなミニトマト(トスカーナバイオレット)に挑戦しています。

